

あゆみ通信

VOL. 180

あゆみの会(真宗大谷
派大阪教区第2組同朋
の会推進部協議会)
会長 細川 克彦
広報 本持 喜康

第2組第39回 同朋大会執行



3月2日(土) 午後2時から第2組第39回同朋大会が、難波別院同朋会館で、組内の住職や坊守、寺族と門徒67名が一堂に会して、2024年仏事のスタートとなりました。

進行は、武石由美住職(専行寺)、サポートを岸野龍之住職(稱念寺)の真宗宗歌で開会。

池田英二郎副組長(宗恩寺住職)の調声で、勤行は正信偈草四句目下、同朋奉讃念仏偈を。続いて墨林浩組長(光照寺住職)のご挨拶がありました。

記念講演は、前日まで教区天満別院輪番の武宮信勝先生(長崎県西海市本照寺住職)から、講題「生きてよし、死して悔いなし」で、御法話をいただきました。先生は、冒頭、講題について、本願念仏のみ教えをいただいた信心の人の生き様が、まさに「生きてよし、死して悔いなし」と言う生き様を賜るといただいているものと話されました。そして、『歎異抄』の言葉を引きながら、親鸞聖人の「愚身の信心におきてはかくの如

し」(『歎異抄』2章)の愚身の信心について話されました。

(法話要旨は別項で)

法話の終了後、閉会は中嶋ひろみ門徒会会長からご挨拶があり、恩徳讃を斉唱して散会しました。

第2組聞法会開講

第2組仏事の柱の一つ、聞法会が開講です。今年からテキスト『初めての正信念仏偈』(池田勇諦先生監修)を、3人の先生が分担して教えていただきます。ご参加ください。

日時 4月22日(月) 午後2時

会場 紹隆寺(天王寺区堀越町)

講師 大橋恵真先生

(18組遠慶寺住職)

参加費 500円(含テキスト)

第2組門徒会総会



門徒会員の改選で、組内の15カ寺から27名の届け出があり、墨林浩組長が召集されて総会が3月15日(金) 午前11時から光照寺で開催。会員10名が(委員4名)参加されました。真宗宗歌で開会、次に開会挨拶墨林組長からあり、併せて新任の会員向けに組門徒会の役割について説明。続いて23年会計報告を事務局の本持から。監査委員の浪花さんが急遽欠席されたため、参加者に諮り、氏の署名により監査報告とし、承認されました。続いて今期の役員選出が行われ、事務局提案の以下の役員が承認されました。

会長 中嶋 ひろみ(光照寺) 再任

副会長 吉田 雄彦(法山寺) 再任

同 本持 喜康(即應寺) 再任
事務局・会計兼務

常任委員 浪花 博(法山寺) 再任

同 石川 武(紹隆寺) 再任

親鸞のことば この世は、見渡す限りの 大海原

ひそか おもん なんし
竊に以みれば、難思

ぐぜい なんどかい
の弘誓は難度海を度

たいせん
する大船 (教行信証)

阿弥陀さまの本願は、荒海のような世を生きる私たちを、安らかな浄土へと渡らせる船です。親鸞は迷いの世を、渡ることが難しい海と表現しました。

人は病気や苦しみの中にいる時に絶望します。親鸞も天災や飢饉に遭遇し、苦難に翻弄されながら生きてきました。そんな「難度海」を生きる私たちの「大船」が阿弥陀さまの本願であると言っています。人間のはからいを超えて、あらゆるものを救うべくはたらき続ける阿弥陀さまの誓いに自分を委ねることが、荒海を生きる依り処だと言うのです。

。(名古屋別院監修「人生を照らす親鸞の言葉」より)

朋友宮澤さんを悼む

前号でお知らせしましたが、あゆみの会創設以来15年間、その運営と推進に共に携わってきた宮澤典男さん(即應寺総代)が2月14日に急逝されました。2月3日の即應寺の歎異抄勉強会には変わりなく一緒に参加されていましたし、2月8日の7回忌を終えられた奥様の月命日の法要でも住職と話されていたと聞きました。最近腰痛で階段などが無理で遠出が出来ず、第2組聞法会も休みがちでした。でも、即應寺の仏事は、事前に鍼灸をして参加し、受付、会計の責任を果たしておられたのです。

佛の教えに遇いながら、でも忘れがちな私たちに、身をもって死はすぐ目の前だと宮澤さんに、あらためて知らされたことに、哀悼の心と共に感謝に堪えません。安らかに、奥様と共にお過ごしください。

南無阿弥陀仏。(本)

能登半島地震被災者支援 救援ご寄付のお願い、

2024年能登半島地震災害から数カ月。未だ、インフラの復旧が目途を立たず、避難生活を多くの方が。ご門徒の皆さん、救援のご協力をお願いします。お手次の寺院から東本願寺を通じ被災者の皆さんにお届けします。

教区門徒会員は、中嶋、吉田(再任)となりました。(敬称略)
任期は2024年3月10日～2027年3月9日です。

終了後、お齋をいただきながら歓談し、第2組の仏事等への結集をお願いし散会しました。

第2組第39回同朋大会 武宮先生法話要約 細川 克彦(佛足寺)



はじめに、先生は講題の「生きてよし、死して悔いなし」という言葉は本願念仏のみ教えをいただいた、いわゆる信心の人と言う生き様を賜っている人の言葉であると話されました。

私たちは思いと事実が裏腹な生き様を今日まで続けて来たのではないかと。宗祖親鸞聖人は『歎異抄』の中で「いずれの行もおよび難き身」(真宗聖典627P)とおっしゃっている。つまり凡夫であると。

念仏はご本願のはたらきであり、念仏は信心を生み出していく。信心を生み出さない念仏は念仏と言えないと。「皆さんは、念仏に生きていけると言える身にさせていただけましたか」と尋ねられました。それは行き詰らなくなった身にさせていただけいたと言うことであると。

我が思いは苦悩なき人生を求めて来たけれど、もう止めませんか。身はそのままだいただいているが、思いはいつまでたってもついていかないと。

東北大震災にあわれたある住職は、念仏が救いになっていなかった、今からは、本当に念仏に聞いていこうと宣言された。それが本願力ではないかと。

長崎で原爆にあわれた永井(隆)医師は、「どん底に大地あり」と言われた。また、高



高史明先生

は浄土が確認できないのですとおっしゃいました。

休憩後先生は、清澤満之師は「人心の至奥より出ずる至上の要求のために宗教あるなり」と言われ、和田稠先生はそのことを「人間は誰でも、確かな生き方の要求がある。確かなものに出会いたいと要求がある」とおっしゃっていると。求道に立たしめられないと、念仏者の誕生も無いと。



最後に、毎朝お内仏の前で手を合わせて欲しい、それが同朋会運動の原点であると。そして、子や孫から、お葬式の時に、「信心の人でした」と言われるようになってくださいと、熱くおっしゃいました。

法話で紹介の方(事務局：注)

①永井隆(1908～1951)

長崎医科大卒、原爆被爆しながら、治療に専念。著書に「長崎の鐘」「この子を残して」がある。

②高史明(コ・サミョン：1932～2023) 在日2世。著述家。

1975年、12歳の子息の自死で、親鸞聖人の教えに帰依。

③清澤満之(1963～1903：明治時代の宗教哲学者) 私塾「浩々洞」を開き、多くの宗教学者を輩出。著作に「絶対他力の大道」「我が信念」等多数。

④和田稠しげし(1916～2006：石川県生まれ。大聖寺教区浄泉寺前住職) 宗教者。著作「信の回復」「生死出べき道」等。

史明先生は、「地面に裸足で立つと、おのずから大地が開かれる。生きている原点が開かれる」と。

先生は、我々は浄土が確認できないのですとおっしゃいました。

浄宗寺 寺地移転、新本堂完成



浄宗寺(加藤友二住職)が昨年11月に寺地を移転され、新本堂を完成されました。立地は、星野リゾートOM07のすぐ近くで、

JR新今宮駅から

地下鉄動物園前駅から5分です。住所は〒556-0003大阪市浪速区恵美須町西3-3-36です。

大推協公開講座

大阪教区同朋の会連絡協議会(略称大推協・会長細川克彦)で聞法活動として公開講座が下記の通り開催されます。皆さまのご参加をお待ちしています。

日時 6月11日(火) 14:00～

会場 難波別院同朋会館講堂

(地下鉄御堂筋線「本町駅」③出口から南へすぐ)

講題「生死出べき道」としての浄土真宗

講師 加来雄之先生

(親鸞仏教センター主任研究員)

参加費 無料

第2組聞法会日程

教材は「初めての正信念仏偈」

開会は14:00、参加費500円

●日程 5月13日(月)

会場 宗恩寺(天王寺区四天王寺)
講師 大橋恵真先生

(18組遠慶寺住職)

●日程 7月16日(火)

会場 唯専寺(浪速区敷津西)
講師 宮部 渡先生

(15組 西稱寺住職)

●日程 8月5日(月)

会場 光照寺(天王寺区上汐)
講師 宮部 渡先生

(同上)

●日程 9月6日(金)

会場 未定
講師 廣瀬 俊先生

(17組 法観寺住職)

●日程 10月22日(火)

会場 未定
講師 廣瀬 俊先生

(同上)